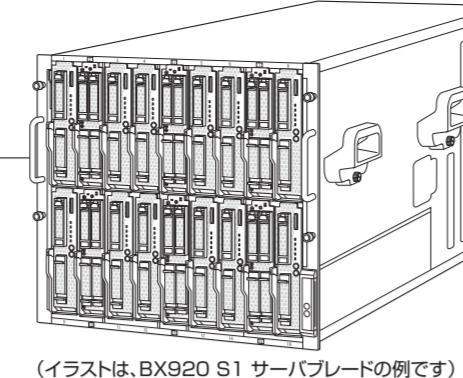


はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では、PRIMERGY BX900ブレードシステム（以降、本製品）の導入について、セットアップの
基本的な流れを説明しています。
本書をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。
本書に記載されていない項目や詳しい手順については、関連する各マニュアルをご覧ください。



本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、『PRIMERGY ServerView Suite DVD 2』に格納されています。
必要に応じてお読みください。

ブレードシステムの概要については、『シャーシ ハードウェアガイド』をご覧ください。

1 作業を始める前に



梱包物を確認する

シャーシ、およびサーバブレードそれぞれの「梱包物一覧」をご覧になり、梱包物がすべて揃っているか確認してください。

□「梱包物一覧」
(シャーシ)

□「梱包物一覧」
(サーバブレード)

必要なものを用意する

本製品のセットアップには、製品に同梱されているもの以外にも次のものが必要になります。
作業を始める前に、すべて揃っているか確認してください。

□プラスドライバー (2番)
シャーシをラックに搭載するときに使用します

□管理端末 (パソコン)
マネジメントブレード、およびコネクションブレードの初期設定に使用します



□DVDドライブ (USB)
□キーボード (USB)
□マウス (USB)
□ディスプレイ (アナログ)
サーバブレードにOSをインストールするときに使用します

『安全上の注意』を確認する

『安全上の注意』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。



2 シャーシを設置する

設置条件について

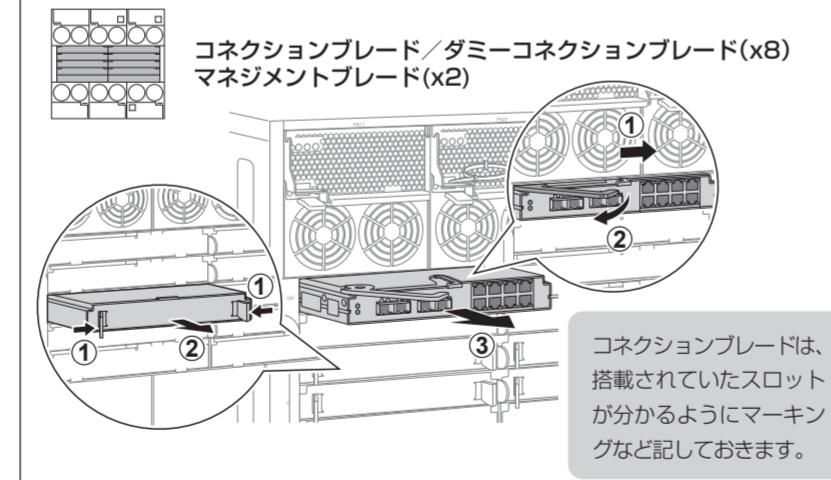
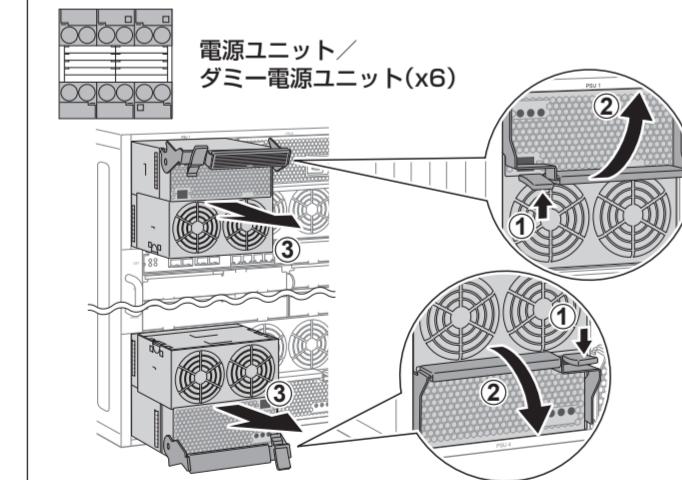
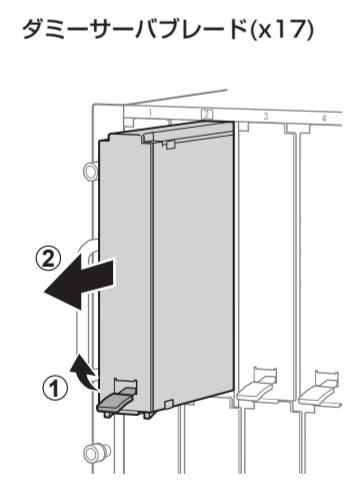
本製品は、ラックに搭載して使用します。ラックの設置および取り扱いについてはラックに添付のマニュアルをご覧ください。
本製品のラック搭載条件や消費電力などの設計構築に必要な情報については、『PRIMERGY』ページの「技術情報」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/tec.html>)
で公開されている「ラックシステム構築ガイド」および「サーバ消費電力・質量計算ツール」をご覧ください。
なお、本製品は、専用室での使用を前提に設計されており、オフィス環境での運用には騒音上の問題が発生いたします。専用室へ設置してください。

本製品の設置環境条件については、『安全上の注意』をご覧ください。

コンポーネントを取り外して軽量化する

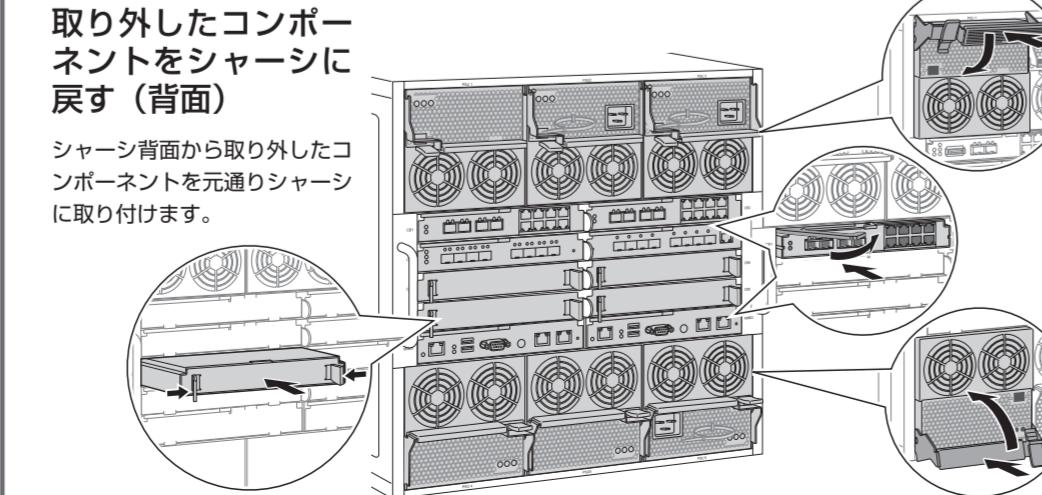
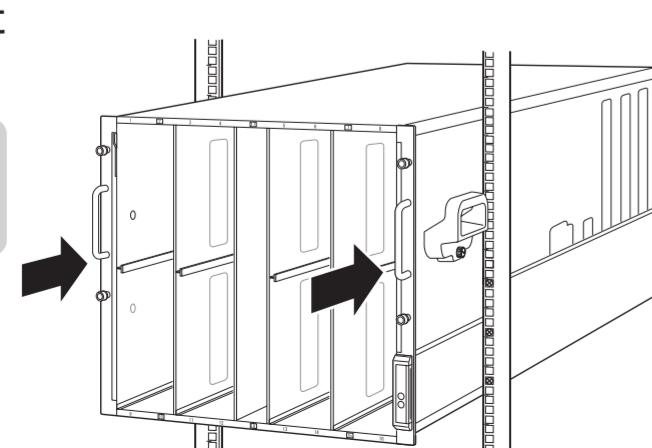
シャーシには、標準搭載のコンポーネント、およびカスタムメイドサービスで選択されたコンポーネントがあらかじめ搭載されています。
油圧リフターなどを使用しない場合は、安全のためすべてのコンポーネントを取り外してからラックに搭載してください。
なお、これらを取り外しても約49kgの質量がありますので、搭載作業は3人以上で慎重に行ってください。

ダミーサーバブレード(x17)



シャーシをラックに搭載する

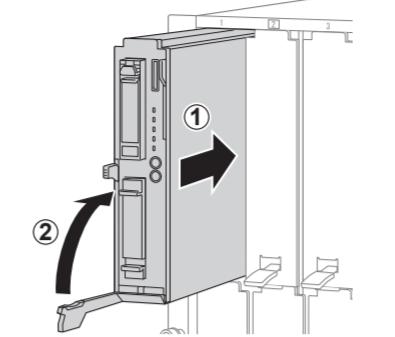
ラックへの搭載手順は、『ラック搭載ガイド』をご覧ください。



3 サーバブレードを搭載する

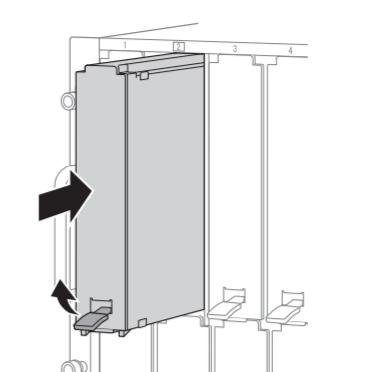
サーバブレードを取り付ける

サーバブレードに別売オプションを取り付ける場合は、サーバブレードの「ユーザーズガイド」をご覧ください。



ストレージブレードは、ここではまだ搭載しません。接続するサーバブレードのOSインストールが完了してから搭載してください。

ダミーサーバブレードを取り付ける



空きスロットには、必ずダミーサーバブレードを搭載してください。

4 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

接続元／接続先を記入する

タグラベルは、ケーブルごとに接続元用／接続先用が1枚ずつ用意されています。下線の箇所に接続名などを記入してください。

□記入例：電源ユニット用タグラベル（シャーシ側）
元 BX900 PSU #1
先 AC-01 PORT #1

接続元のシャーシ名や接続口番号などを記入します。
接続先のコネクタ名／切替器名／識別名／タップ名／コンセント名などを記入します。

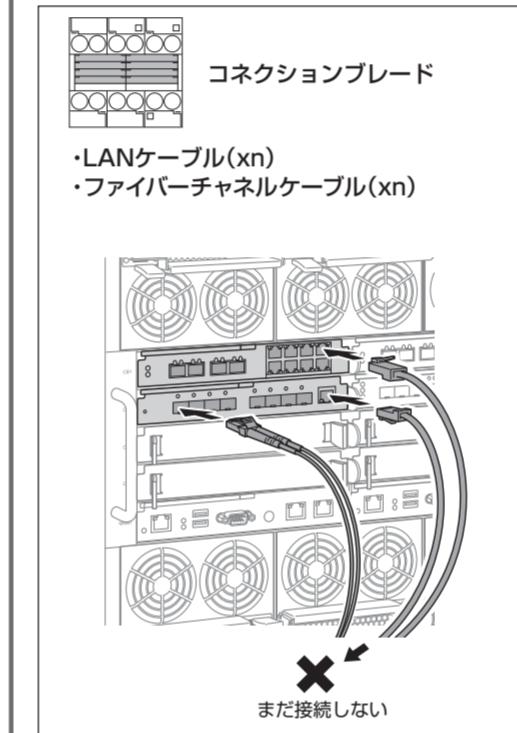
タグラベルを貼り付ける ケーブル両側のコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルに巻きつけるように貼り合わせます。



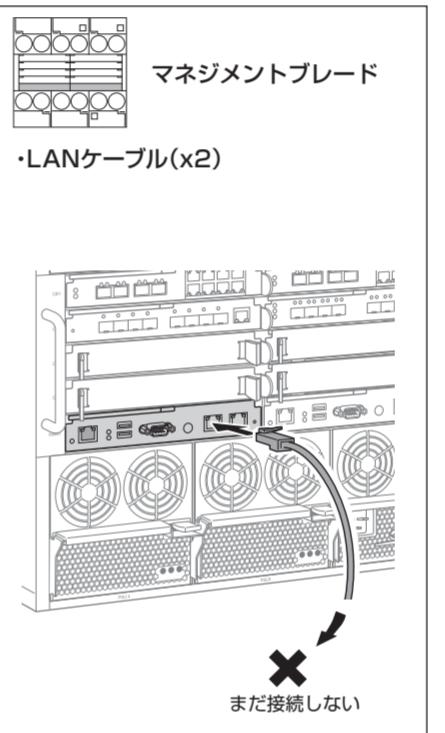
5 シャーシ背面に各種ケーブルを接続する

ケーブルを接続する

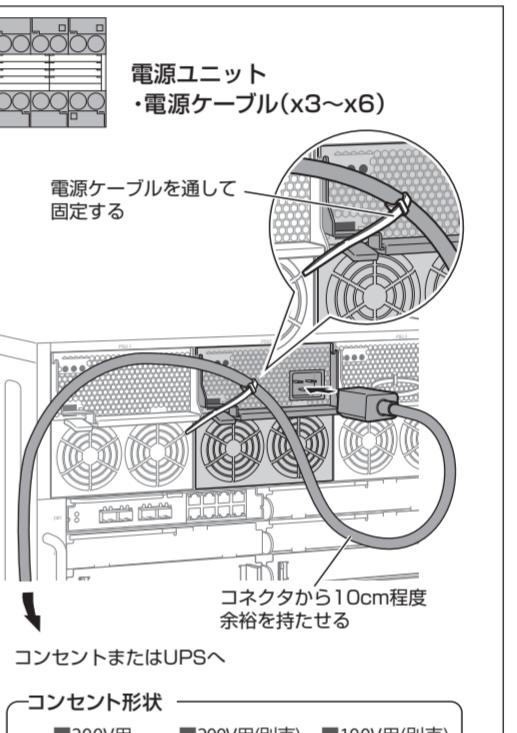
各コネクションブレード、マネジメントブレード、および電源ユニットに
対応するケーブルを接続します。



LANケーブル(xn)
ファイバーチャネルケーブル(xn)



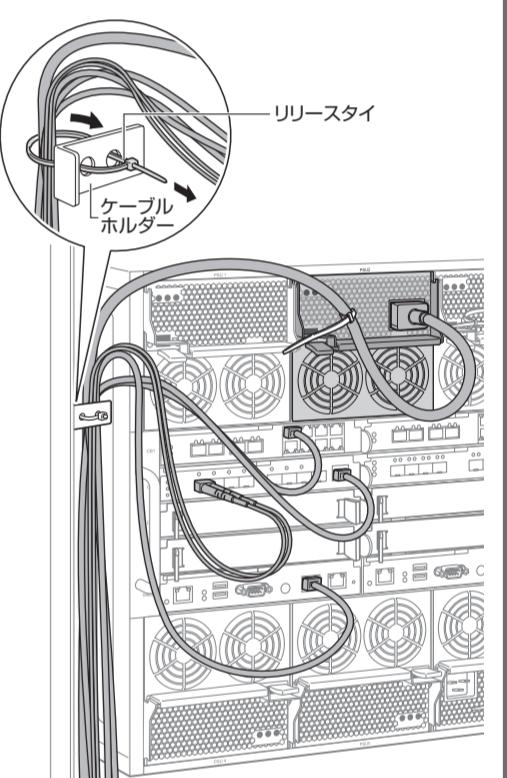
LANケーブル(x2)



電源ユニット
電源ケーブル(x3~x6)

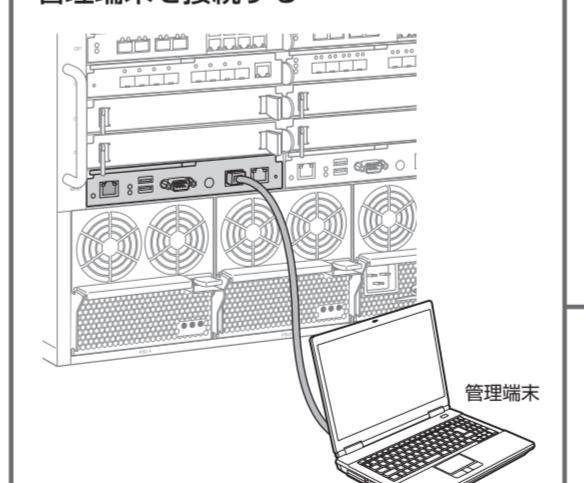
ケーブルのフォーミング

リリースタイ (シャーシに添付) を使用して、各
種ケーブルをまとめてケーブルホルダー (ラック
に添付) に固定します。



6 マネジメントブレードの初期設定をする

管理端末を接続する



ファームウェアの版数を確認する

1.左下の設定項目メニューで「コンポーネント」→「マネジメントブレード」を展開し、「マネジメントブレード-1」をクリックします。
2.「F1」をクリックします。
3.「マネジメントブレード-2」をクリックし、同様に「ファームウェア版数」の値を記録します。
4.インターネットに接続されている他の端末で「PRIMERGY」ページの「ダウンロード」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>)を開き、「ダウンロード検索」をクリックします。
5.製品名および型名にお使いの製品を選択し、カテゴリに「ファームウェア」、OSに「OS選択なし」を選択し、「添付ソフト／ドライバ名稱」欄に「マネジメントブレード」と入力して「検索開始」をクリックします。
6.表示された一覧から、最新のファームウェアのバージョンを確認します。
7.手順3で確認したファームウェアが最新ではない場合は、最新のファームウェアをダウンロードして更新します。
ファームウェアの更新手順は、ダウンロードしたファームウェアのドキュメントをご覧ください。

初期設定ウィザードを実行する

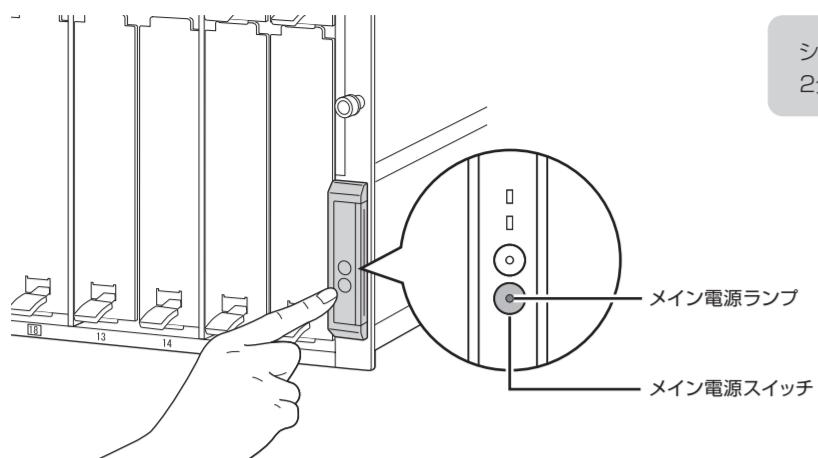
必要な設定を行なうために、マネジメントブレードの
ServerView Management Blade Frontend(以降、SVMF)にログインします。
1.管理端末のIPアドレスを、マネジメントブレードの初期値
(192.168.1.10)と同一ネットワーク、かつ重複しない値
に設定します。
2.管理端末からWebブラウザを起動し、192.168.1.10に
アクセスします。
3.次のユーザー名とパスワードを入力します。
[ユーザー名: admin] [パスワード: admin]
SVMFの初期画面が表示されます。

1.左下の設定項目メニューで、「設定」の左の「+」をクリックして展開し、「基本設定ウィザード」をクリックします。
2.「F1」をクリックします。
3.「言語の選択」画面で、両方の項目に「日本語」を選択して「次へ」をクリックします。
4.「日付と時刻の設定」画面で、現在の日時を入力し、タイムゾーンを選択して「次へ」をクリックします。
5.「設定のインポート」画面で、「設定のインポートの実行」がチェックされていないことを確認して「次へ」をク
リックします。
6.「識別情報設定」画面で、システム名などの識別情報を入力して「次へ」をクリックします。
7.「ネットワーク設定」画面で、管理ポートのネットワーク情報を設定し、「次へ」をクリックします。
(例)IPアドレス: 192.168.1.10
サブネットマスク: 255.255.255.0
ゲートウェイ: 192.168.1.1
8.「電源管理設定」画面で、「電源ユニット管理の設定」にチェックを付け、冗長構成を選択して「次へ」をクリック
します。
9.「暗証番号設定」画面で、LCDパネルを使用するための暗証番号を設定し、「次へ」をクリックします。
10.「ハードウェアチェック」画面で、「E-keyingチェック」欄に「開始」をクリックしてE-keyingチェックを実行します。
エラーが検出された場合は、サーバブレードに搭載した拡張ボードとコネクションブレードの対応を確認して
ください。
11.エラーが検出されなければ、「終了」をクリックします。
設定が保存されると、「終了」が終了します。
12.IPアドレスを変更した場合には、新しいIPアドレスでSVMFに再接続します。
なお、セグメントを変更した場合は、管理端末のIPアドレスも同一セグメントに変更する必要があります。

管理者アカウントのパスワード変更
セキュリティのため、初期ユーザー「admin」のパスワードを
変更します。
1.「情報／操作」→「ユーザー管理」→「ローカルユーザー」の順
にクリックし、「名前欄の「admin」をクリックします。
2.「パスワード」および「パスワード(再入力)」に新しいパス
ワードを入力し、「適用」をクリックします。
SNMPの設定
ServerView Operations Managerのサーバ監視機能を使
用するため、SNMPエージェントの次の項目を設定します。
コミュニティ名は、監視を行うServerView Operations
Manager側と同じ文字列を設定してください。
1.「設定」→「SNMP」の順にクリックします。
2.「コミュニティの追加」欄でコミュニティ名とユーザー権限
を設定し、「追加」をクリックします。
3.新しいトラップの送信先欄で、トラップ送信先のIPア
ドレスと使用するコミュニティ名、通知するイベントの種類
を選択して「追加」をクリックします。
4.「SNMPの有効」欄の「SNMPの有効」にチェックを付け、
「適用」をクリックします。

シャーシの電源を入れる

シャーシ前面右下のメイン電源スイッチを押して、シャーシの電源を入れます。



シャーシの電源は、電源ケーブルを接続後2分以上経過してから入れてください。

- お買い上げ時の設定では、シャーシの電源が入ると、インベントリ収集のため搭載されているサーバーブレードの電源が断続的に入／切します。インベントリの収集が完了するまで、しばらくお待ちください。
- 電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。動作保証温度の範囲内であれば、しばらくしてから通常の回転になります。

OSインストールの準備をする

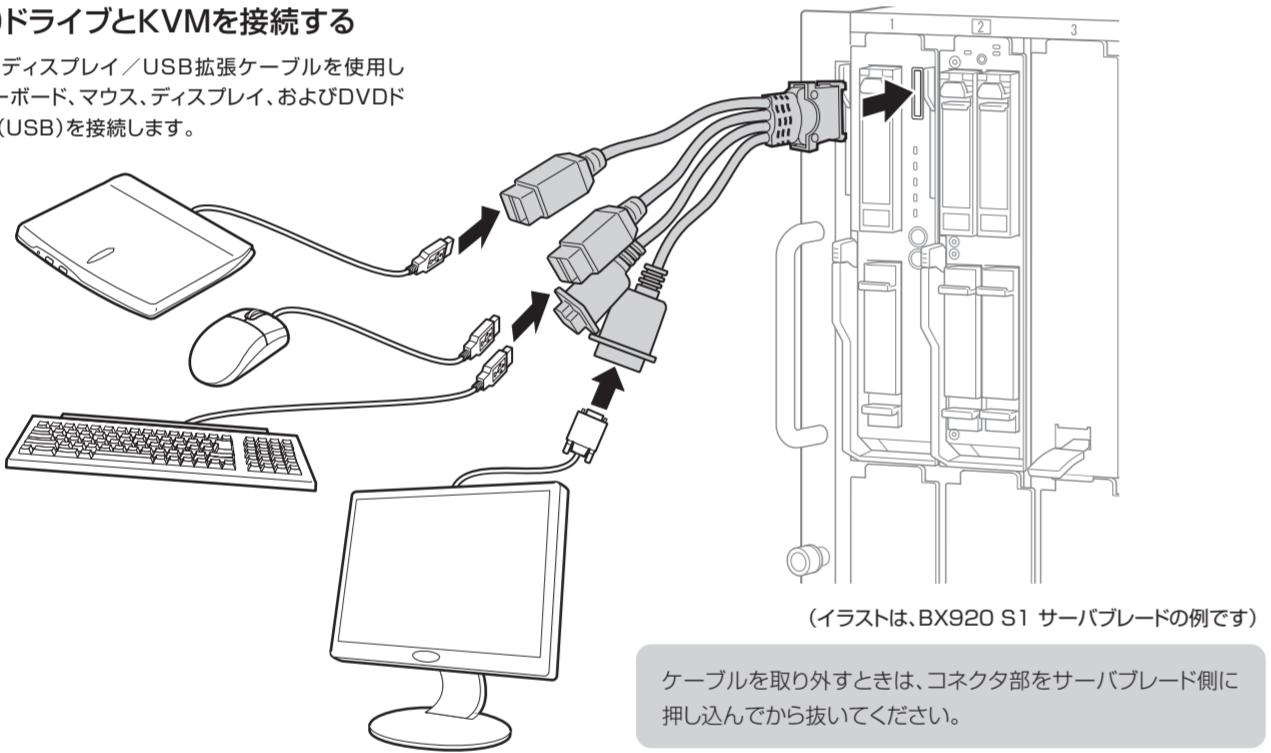
PRIMERGY ServerView Suite DVDを確認する

OSのインストールには、インストールするサーバーブレードに対応した「ServerView Suite DVD」を使用します。

- シャーシとサーバーブレードを同時に購入された場合は、シャーシに添付の「ServerView Suite DVD」を用意してください。
- 別途サーバーブレードのみを購入された場合は、サーバーブレードと同時に手配の「ServerView Suite」を用意し、以降の手順はサーバーブレードに添付の「はじめてお読みください」をご覧ください。

DVDドライブとKVMを接続する

添付のディスプレイ／USB拡張ケーブルを使用して、キーボード、マウス、ディスプレイ、およびDVDドライブ(USB)を接続します。

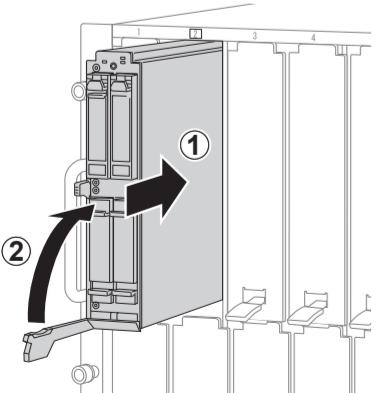


ケーブルを取り外すときは、コネクタ部をサーバーブレード側に押し込んでから抜いてください。

OSインストール後の操作

ストレージブレードを搭載する

ストレージブレードをお使いの場合は、接続するサーバーブレードの右隣のスロットに搭載します。



その後、アレイコントローラのマニュアルをご覧になり、アレイの構築を行ってください。

LAN設定について

□ LANポートとアダプタ番号の対応確認

SVIMでは、インストール時に設定したネットワーク情報が、OSから見てどのアダプタに設定されるかを指定できません。インストール完了後に、必ず設定内容を確認してください。

確認方法については、各OSのヘルプなどをご覧ください。

□ 他のアダプタの設定

クリックモードでは、インストール時に設定できるLAN設定は1つだけです。

必要に応じて、他のアダプタのLAN設定を行ってください。

ホットフィックスの適用
(Windowsの場合)

必要なホットフィックスを適用してください。

エラータの適用
(Linuxの場合)

必要なエラータを適用してください。

OSをインストールする

ServerView Installation Manager (SVIM)を使用します。詳しくは、「ServerView Suite - ServerView Installation Manager」をご覧ください。

なお、Linuxを新規にインストールする場合は、SVIMを使用する前にインストールDVDを作成するなど、準備が必要です。

Linuxインストール代行サービス
バンドルタイプをご購入の場合

root/パスワードについて

ご購入時のroot/パスワード(管理者/パスワード)は右記に設定されています。jW%6m9zPn
セキュリティのため、パスワードは必ず変更してください。

Windowsの新規インストール

1 SVIMでインストールを行います。

Linuxの新規インストール

1 インストールDVDを作成します。

インストールDVDは、RHN (Red Hat Network) からダウンロードして作成します。

RHNへの登録については、「Red Hat Network、サブスクリプションの登録方法」
(<http://www.redhat.co.jp/FAQ/regist.html>)をご覧ください。

1. RHNにログインします。
2. ISOイメージの公開サイトページを開きます。
インストールするディストリビューションを選択してください。
3. Binary DiscのISOイメージをダウンロードします。
RHNの画面にMD5チェックサムが表示されています。ダウンロードしたISOイメージのチェックサムが正しいか確認してください。
4. ダウンロードしたISOイメージから、インストールDVDを作成します。

2 富士通Linuxサポートパッケージ(FJ-LSP)を準備します。

FJ-LSPは、サポート契約されたお客様のみ対象となります。FJ-LSPは、富士通のSupportDesk契約者様向けサイト(SupportDesk Web : <http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>)からダウンロードしてください。

3 SVIMでインストールを行います。

SVIMのアプリケーションウィザードでFJ-LSPを適用してください。

9 ServerView Suiteマニュアル、『Software Manual』
アレイコントローラのマニュアル

コネクションブレードの設定／接続

コネクションブレードを設定する

お使いの環境にあわせて各コネクションブレードの設定をします。

ここでは、設定手順の概要のみを説明します。

詳しい手順、設定内容については、お使いのコネクションブレードのマニュアルをご覧ください。

1 管理端末からマネジメントブレードのSVMFにログインします。

接続方法については、表面の⑥をご覧ください。

2 フームウェアの版数を確認します。

1. 左下の設定項目メニューで「コンポーネント」→「コネクションブレード」を展開し、設定するコネクションブレードをクリックします。
2. 「ファームウェア版数」の値を記録します。
3. インターネットに接続されている他の端末で「PRIMERGY」ページの「ダウンロード」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>)を開き、「ダウンロード検索」をクリックします。
4. 製品名および型名にお使いの製品を選択し、カテゴリに「ファームウェア」、OSに「OS選択なし」を選択します。
5. 「添付ソフト／ドライバ名」欄にお使いのコネクションブレードの型名を入力し、「検索開始」をクリックします。
6. 表示された一覧から最新のファームウェアのバージョンを確認します。
7. 手順1で確認したファームウェアが最新ではない場合は、最新のファームウェアをダウンロードして更新します。
ファームウェアの更新手順は、ダウンロードしたファームウェアのドキュメントをご覧ください。

3 コネクションブレードのWebインターフェースにログインします。

1. 左下の設定項目メニューで、設定するコネクションブレードをクリックします。
2. 「設定タブ」をクリックします。
3. 「管理ポートの設定」欄で、「DHCP有効」のチェックを外します。
4. IPアドレスを、他のコネクションブレード、マネジメントブレード、および管理端末と重複しない値に設定し、「適用」をクリックします。
5. 設定が反映されるまで3分以上待ち、「情報」タブをクリックします。
6. 「管理URL」欄のリンクをクリックします。
7. コネクションブレードのマニュアルをご覧になり、初期アカウントのユーザー名／パスワードを入力してログインします。

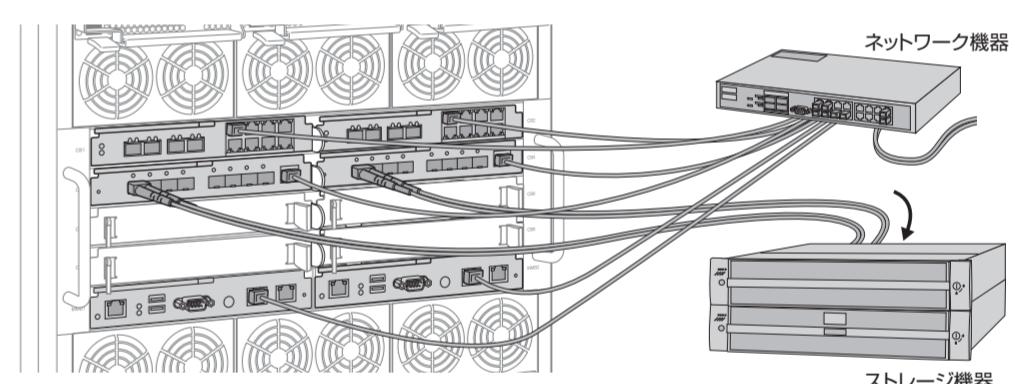
4 コネクションブレードに必要な設定を行います。

コネクションブレードのマニュアルをご覧になり、管理者パスワードや時刻設定、VLANの設定など、お客様環境に応じたネットワーク設定を行ってください。

管理者パスワードは、マネジメントブレードの管理者アカウントと同じものを設定してください。

ケーブルを接続先機器に接続する

管理端末に接続していたLANケーブルを取り外し、他のLANケーブル／ファイバーチャネルケーブルとともにネットワーク機器やストレージ機器などに接続します。



注意事項

使用許諾契約書

富士通株式会社(以下「弊社」といいます)では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア(以下「ソフトウェア」といいます)をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」に同意いただけたことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点での、本契約にご同意いただいたものといたしまでの、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただき、お読みいただけますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部のソフトウェアに別途の「使用条件」(以下「別途の使用条件」といいます)が付いている場合は、本契約に付属する「別途の使用条件」を適用するものとします。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および権利

お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第3者に帰属するものとします。

2. バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用(バックアップ)媒体を作成することができます。

3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアとの組み込み

本ソフトウェアが、別々のソフトウェアに組み込まれて使用されることを予定した製品である場合は、お客様は本マニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4. 備考

(1) 本ソフトウェアの複製は、記入(および複数の記入)の場合は、記入部に限られるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた他のソフトウェアについては、マニフェスト等で弊社が複製を許していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。

(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付属する著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェアに添付されている媒体、マニュアルなどを予備用(バックアップ)媒体含めます)を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。

(3) 本ソフトウェアに第三者者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブリをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェア(マニフェスト等に記載された)の不一致がある場合、本サーバを購入いただいた日から15日以内に、お問い合わせいただければ当該不一致の修正に関する情報を提供いたします。また、本ソフトウェアの複製は、記入(および複数の記入)の場合は、記入部に限られるものとします。

(2) 弊社は、前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアの使用または使用不能が生じる場合、本ソフトウェアの修理や返品等の対応を行います。

(3) 本ソフトウェアに第三者者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものです。ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途には、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接人身に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

原子力制御制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命维持、兵器射撃制御など

Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux、Linus Torvaldsは、米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red HatおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

その他の各製品名、各社の著作物です。

富士通株式会社

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

⑦1001-1